

審議会を設置するため、条例を制定するものです。

◎白石市教育支援センター 条例

教育機会確保法では、不登校

児童・生徒の学習支援を行う公立の教育施設の整備が、地方公共団体の努力義務とされていることから、現在、宮城県の補助事業を活用し運営している「白石市子どもの心のケアハウス」を、学習支援等教育施設「教育支援センター」として位置づけるため、条例を制定するものです。

予 算

◎令和3年度白石市一般会計 補正予算(第8号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ2億6千万円を増額し、予算の総額を177億1千859万8千円とするものです。

主な内容は、令和3年11月30日の拡大公立刈田総合病院管理運営会議で合意された所要額3億円について、一時借入金によらず、組合を構成する1市2町からの繰出金で対応するこ

ととなったことから、財政調整基金繰入金を増額し、出資金2億6千10万円を計上するものです。

◎令和3年度白石市一般会計 補正予算(第9号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ2億2千936万9千円を増額し、予算の総額を179億4千796万7千円とするものです。主な内容は次のとおりです。

○ふるさと納税推進事業

7千108万6千円

○障害福祉サービス給付事業

5千468万6千円

○新型コロナウイルスワクチン接種事業

5千591万9千円

◎令和3年度白石市一般会計 補正予算(第10号) (定例会最終日提案)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ8千355万2千円を増額し、予算の総額を180億3千151万9千円とするものです。

主な内容は、令和3年産米の概算金減少に伴う稲作農業者

に対する支援対策補助金、原油価格の高騰による福祉灯油等給付金、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金などの費用を計上するものです。

本会議質疑より

◎令和3年度白石市一般会計 補正予算(第8号)

〔質疑〕公立刈田総合病院への1市2町からの3億円の追加で、どのくらい運営できる見込みなのか伺う。

〔答弁〕今回は12月の職員の期末手当、給与の資金需要のため追加資金が必要となったものであり、令和4年1月、2月は医療収入が落ち込まない限り、資金ショートはないものと考えます。

しかし、3月には建設企業債の定期償還3億5千万円と、令和2年度からの一時借入金7億6千万円の償還を迎えることから、資金が不足するものと見込まれる。

〔質疑〕令和4年3月の、公立刈田総合病院の約11億円の資金

需要に対し、どのように対応する計画なのか伺う。

〔答弁〕3月の資金需要に対する措置として、特別減収対策企業債の借り入れ可能時期が重要となる。

現在、この企業債を借り入れるため、国に資金不足解消計画を提出していることから、起債の発行可能時期を見定め、正副管理者と協議を行いながら、資金の手当て方法を決めていきたいと考える。

〔質疑〕令和5年の白石市二町組合の解散に向けた協議がなかなか進まないという聞き、進捗状況を伺う。

〔答弁〕七ヶ宿町長から「公設民営を含めた他の経営形態を考えていくのであれば、組合を解散し、白石市が市立病院として運営してはどうか」との提案があり、蔵王町長もその考えに賛同したことを重く受け止めている。

決して本市として解散を望むものではないが、公設公営にこだわっていたのでは、病院を存続するのは不可能であることから、解散に向けた動きとなるも少子化が進んでいるのか」

っている。

しかし、解散までにはさまざまな協議、議会の議決が必要であり、年度内には一定の道筋を決めなければ、期日までの解散が難しくなることから、引き続き粘り強く解散に向けた協議を行なっていきたい。

◎白石市学校教育・保育審議会 条例

〔質疑〕本市の少子化の現状について、全小中学校の父母教師会役員や、全地区の自治会長・民生児童委員に対し、説明を行なったとのことだが、どのような意見があったのか伺う。

〔答弁〕本市の1年間に生まれる子どもの数は、平成29年度までは200人台を維持していたが、平成30年度は172人、令和2年度は120人と、ここ数年で半数近く減少している。

さらに令和3年度は100人を切る見込みであることから、市長との地区懇談会などで説明を行なったところ、皆さ